



「GIGAスクール構想」時代のICT活用ガイド ー 県立学校版 ICT活用レシピ ー



埼玉県立総合教育センター

はじめに

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力の一つに改めて情報活用能力を位置づけ、各教科等におけるＩＣＴを活用した学習活動の一層の充実を目指しています。

また、「ＧＩＧＡスクール構想」への対応により、本県においても令和２年度末には、高等学校においてＢＹＯＤ用高速大容量通信ネットワークの整備が進む予定です。また、特別支援学校においては、小・中学部で１人１台端末が、高等部では３クラスで１クラス程度の端末と高速大容量通信ネットワークの整備が、それぞれ進む予定です。今後は、各学校でＩＣＴを積極的に活用し、児童生徒一人一人に対して個別最適化された学びを実現することによって、創造性を育み、資質・能力を確実に育成することが重要です。

県立総合教育センターでは、この度、各学校におけるＩＣＴを活用した学習活動を支援するため、「『ＧＩＧＡスクール構想』時代のＩＣＴ活用ガイド」を作成しました。

ガイドでは、児童生徒１人１台端末のＩＣＴ環境における学びや、ＢＹＯＤ環境における学びの具体的なイメージを示すとともに、指導にすぐ活かせるよう「ＩＣＴ活用レシピ」を教科ごと（特別支援学校では学部ごと・教科等ごと）に掲載しています。

各学校におかれましては、昨年発行の「令和２年度高等学校ＩＣＴ活用事例集」と併せて、「ＧＩＧＡスクール構想」時代のＩＣＴの一層の活用に向けて参考にさせていただくようお願いします。



Google™, Google ドキュメント™, Google スプレッドシート™, Google スライド™, Google フォーム™, Google Jamboard™, Google Meet™, Google Classroom™, Google Earth™ は、Google LLCの商標または登録商標です。Windows, Word, Excel, PowerPoint, Microsoft Whiteboardは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Keynote, Pages, Numbers, iMovie は、米国その他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
なお、本文中には™マーク、®マークは明記していません。

目次

□ これからの学びの場のイメージ

- 学びにおけるICT活用の大前提 . . . 3
- 家庭・学校における学びの役割 . . . 4

□ これからの教育環境のイメージ

- BYODって何? . . . 5

□ 授業におけるICT活用のイメージ

- 授業における学習場面の整理 . . . 7
- 一斉学習 . . . 8
- 個別学習 . . . 9
- 協働学習 . . . 15

□ ICTを活用した授業づくりのイメージ

- ICTを活用した授業づくりの手順 . . . 19

□ 授業以外におけるICT活用のイメージ

- HR活動 . . . 22
- 進路指導 . . . 24
- 学校行事 . . . 26

□ ICT活用レシピ高等学校編

□ ICT活用レシピ特別支援学校編



学びにおけるICT活用の大前提

- 日常生活において、スマートフォンやタブレット端末等の情報通信機器は無くしてはならない存在となっています。情報通信機器を「安全に・快適に・有効に」活用する力、すなわち「社会で生きて働く力」の育成は学校教育の役割です。
- また、新学習指導要領では、ICT活用を広く捉える表現として「情報活用能力」という言葉を用い、こうした力を教科指導をとおして育成していくことが示されています。
- では、現在またこれからの教育環境において、情報通信機器を「安全に・快適に・有効に」活用する力を、教科指導をとおして、どのように育成していけばいいのでしょうか。
- 「ICTを活用した授業」を想像すると、今までの授業で行っていた教科指導や教育活動の全てを情報通信機器に置き換えて実施すると考えるかもしれません。また、一時間の授業時間における全ての学習活動で学習用端末を活用しなければならないと思われるかもしれません。
- 「ICTで学ぶ」ということではなく、ICTの特性や強みを生かして、先生方が授業のねらいを達成させるために必要と思われる場面において活用する「ICTは学びの支援ツール」という視点を持つことが必要です。
- また、ICTを活用する場面を検討する際には、これから展開する授業や学習活動の環境において、利用できる情報通信機器等の条件について考慮することも重要です。
- 社会の要請が変わり、学校教育に求められるものも大きく変化する中で、教科指導をとおした「情報活用能力」の育成に向け「学びにおけるICT活用」を継続的に行うためには、以下について心掛けて授業づくりをすることが大切です。

- 今までの授業や学習活動の全てを情報通信機器に置き換えるものではない。
 - 授業時間内で情報通信機器を常時活用するものではない。
- 紙や黒板で十分に学習のねらいが達成できるのであれば、ICTの活用を見送る。



家庭・学校における学びの役割

- 2020年、新型コロナウイルス感染の世界的流行によって、全国の学校で3月から約3か月もの長い期間、臨時休業を余儀なくされました。今まで経験したことのない非常事態において「児童生徒の学びを止めない」を合言葉に、各学校は様々な家庭学習支援に取り組まれています。
- その中でも、遠隔技術や授業支援ツールなどICTを活用した学習支援策は、児童生徒とのコミュニケーションによる心理的安心感を抱かせることを含め、児童生徒の学びにおいて有効であることが実体感を持って知る機会となりました。
- しかし、臨時休業中に盛んに取り組まれていたICTを活用した学びも、学校再開後の教育活動においては、新しい生活様式を取り入れた学びに取り組まれています。その中にICTが活用される場面が少なくなっている状況もあるようです。
- 未だに収束することのない新型コロナウイルス感染拡大や、台風や地震などの大規模災害への備えを含め、日々の教育活動においてICTに慣れ親しむことが必要です。
- 一方で、新学習指導要領における学び「主体的・対話的で深い学び」においても、ICTは学びを効果的に支援する役割を担うツールとして注目されており、GIGAスクール構想による義務教育学校での一人一台の環境整備も急ピッチで進められています。
- 最近では、「これからの学びにおけるICTは、ノートや鉛筆と同じ文房具」と言われるようになっていきます。
- 時代の変化によって、社会生活で求められる力も変わる中で、ICTを有効に活用して、これからの社会を生き抜くために必要な力を着実に身に付けられるよう、今までの学校教育を根本的に見直していくことが必要です。



家庭における学びの役割

- 学校における「主体的・対話的で深い学び」に取り組むために必要な既有知識を身に付ける。



学校における学びの役割

- 家庭における学びで身に付けた既有知識を有効に活用し、生徒同士の学び合いをとおして、学習理解を深める。

BYODってなに？

- 「BYOD」は、ビジネス用語として利用されていましたが、ここ数年、学校でのICT化が進む中でも「BYOD」という言葉を耳にするようになっていきます。
- 「BYOD」とは、「Bring Your Own Device」の略称で、直訳すると「個人所有のデバイスを持参する」というものです。
- もう少し分かりやすく説明すると「個人で所有しているスマートフォンやタブレット、ノートパソコンなどの端末を学校内に持ち込み、学校内のネットワークに接続して授業等で活用する」という仕組みになります。



- BYODは、端末を学校内のネットワークに接続して利用するので、学校でインターネットを閲覧するなどしても、個人が通信費用を支払う必要はありません。
- ただし、授業において端末を使用する際には、生徒個々が所有する端末が様々であることから、それぞれの特徴を考慮した上で、同じ学習活動に取り組めるような教材を準備するなどの注意が必要です。
- また、ネットワークの利用においては、Webフィルタリング※⁴機能で不適切なサイトや有害アプリ等にアクセスできない仕組みとなっていますが、インターネット上のすべての情報を網羅することは難しいため、学校内のネットワーク利用に関する生徒への事前指導（情報モラル教育）も必要です。

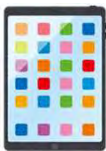


※⁴ Webフィルタリング：インターネット上のウェブページなどを一定の基準で判別して、悪質なサイトなどを見れないようにすること。



BYODってなに？

□ スマートフォン，タブレット，ノートパソコンの各端末における特徴は次のとおりです。

端末の種類 端末の特徴等	スマートフォン 	タブレット 	ノートパソコン 
主なOS	- Android - iOS	- Android - iOS - Windows	- Chrome - iOS - Windows
画面操作 (タッチパネル)	○	○	△ ※ 一部タッチパネル機能を搭載していない機種もあります
キーボード (スクリーン※ ⁵)	○	○	×
キーボード (外付け)	×	○	○
	※ 一部専用キーボードがセットとなっている機種もあります		
入力方法 (フリック※ ⁶)	○	○	×
入力方法 (キーボード※ ⁷)	△	△	○
	※ 小さい画面での文字入力のため操作しにくい		
	※ 操作性を高めるため、外付けキーボードの活用が望ましい		
活用	- 文書作成 : △ - 表計算 : × - メール : ○ - 写真撮影 : ○ - ネット検索 : ○	- 文書作成 : △ - 表計算 : △ - メール : ○ - 写真撮影 : ○ - ネット検索 : ○	- 文書作成 : ○ - 表計算 : ○ - メール : ○ - 写真撮影 : × - ネット検索 : ○

※⁵ 画面上に平面的なキーボードを表示して、キーが表示されている部分をクリックやタッチすることで文字入力やキーボード操作ができるアプリ。

※⁶ 携帯電話のボタンと同じ配列で文字入力する方法。

※⁷ QWERTY (クウェイティ) キー (通常のパソコンのキーボード配列) で文字入力する方法。



授業における学習場面の整理

- 授業でICTを有効に活用するためには、授業内外での学習場面を整理する必要があります。
- 令和元年12月に公表された文部科学省「教育の情報化に関する手引」では、ICTを効果的に活用した学習場面を大きく3つに分類し、更にそれぞれの学習場面を細分化して紹介しています。
- また、学習場面におけるICTの活用主体についても、整理しておくことも必要です。

ICTを効果的に活用した学習場面

○ 一斉学習

A1 教師による教材の提示：電子黒板等を用いた分かりやすい課題の提示

○ 個別学習

B1 個に応じた学習：一人一人の習熟の程度などに応じた学習

B2 調査活動：インターネット等による調査

B3 思考を深める学習：シミュレーション等を用いた考えを深める学習

B4 表現・制作：マルチメディアによる表現・制作

B5 家庭学習：タブレットPC等の持ち帰りによる家庭学習

○ 協働学習

C1 発表や話し合い：考えや作品を提示・交換しての発表や話し合い

C2 協働での意見整理：複数の意見や考えを議論して整理

C3 協働制作：グループでの分担や協力による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習：遠隔地の学校等との交流

- 次のページ以降に、「一斉指導による学び（一斉学習）」、「子供たち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）」、「子供たち同士が教えあい学び合う協働的な学び（協働学習）」の各学習場面について、ICTを活用しない場合（Before）と、ICTを活用した場合（After）の違いについて説明します。



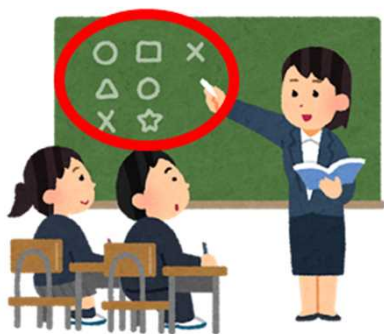
一斉学習



A 1

教師による教材の提示

- 挿絵や写真等を拡大・縮小，画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより，子供たちの興味・関心を高めることが可能となります。



ICTを活用しない場合

Before

- 板書計画に則り，黒板に授業内容や学習内容等を板書して提示する。

After

ICTを活用した場合

【拡大提示】

- 黒板等に，プロジェクタを用いて授業内容や学習内容等を投影して提示する。
- 資料提示だけではなく画像・音声・動画などを提示することで授業への興味・関心を高める。
- 状況に応じて提示内容の拡大や補足説明などの書き込みを行い理解の促進を図る。

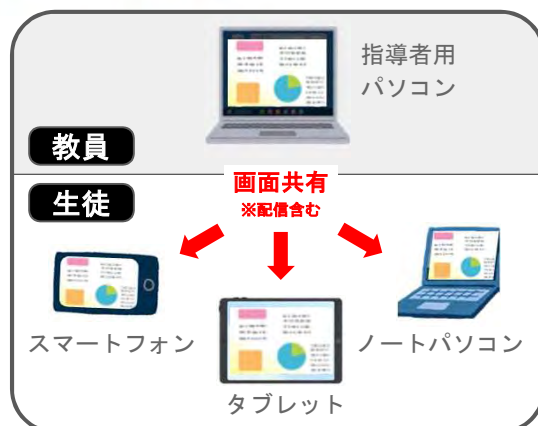
【画面共有】

- 授業内容や学習内容等を電子データで生徒端末に共有し，生徒個々の端末上に提示する。



拡大提示

画面共有



ICT活用により期待できる効果

- 学習課題等の効果的な提示及び説明
- 学習者（生徒）の興味・関心の喚起
- 学習課題に対する理解の深まり

etc...

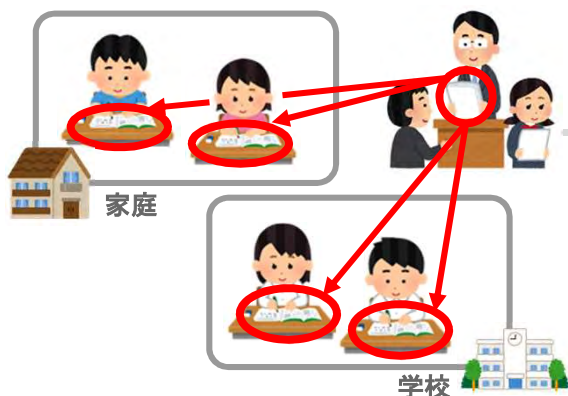


個別学習



B 1 個に応じた学習

- 情報端末を用いて、各自のペースで理解しながら学習を進めて知識・技能を習得することが可能となります。

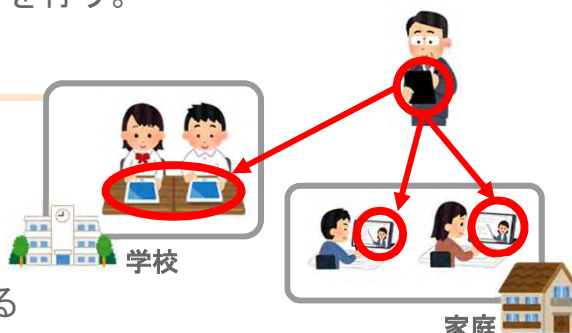


ICTを活用しない場合 Before

- 教材プリントを配布し、学習課題に取り組む。
- 課題終了後、教材プリントを回収し、採点等を行う。

After ICTを活用した場合

- 教材プリントを電子的に生徒個々の端末に配信、また回収できる。
- 生徒個々の習熟度に応じた教材を配信することができる。また、動画を教材にすることができ、繰り返し映像を確認する等、各自のペースで理解しながら学習を進めることができる。



ICTを活用しない場合 Before

- 発音や演奏などの活動を、対面形式で教員がチェックする。

After ICTを活用した場合

- 端末で発音や演奏などの活動を録画する。録画した映像を再生し、自己評価に基づき練習することで技術を習得することができる。



ICT活用により期待できる効果

- 教材配布及び回収の時間短縮
- 自分自身の取り組みを自己評価しながらの技術習得
- 課題や成果物のデジタル保存

etc...



個別学習

B 1

個に応じた学習



ICTを活用しない場合

Before

- 学習のツールが紙と鉛筆に限られてしまうことで、習得が困難になったり、力を十分に発揮できなかったりする場合がある。

After

ICTを活用した場合

- 読み上げ機能を用いることで、デジタル教科書の文章を音声で聞くことができ、「読むこと」の補助ができる。

はじめに、



- 鉛筆を手で持って文字を書くことが難しい場合でも、キーボードを活用して文字を入力することで、「書くこと」の代替手段になる。



- 電子化された絵カードなどを使って自分の意思を選択することで、やりたいことや自分の気持ちを伝えることができる。音声出力することでよりスムーズにコミュニケーションができる。



～をお願いします。



- 文字だけでなく、動画や画像など視覚的な情報を活用することで、より深く学習内容の理解ができる。

- 予定を絵カードなどで視覚的に見ることで、見通しを持って自分で行動することができる。



ICT活用により期待できる効果

- 「読むこと」や「書くこと」等の代替手段となり、学びが深まる
- 学習者（生徒）の見通しを促し、自立した行動につながる etc...



個別学習



B 2 調査活動

- インターネットやデジタル教材等を用いたり，遠隔技術を活用した専門家へのインタビューや講義等をとおして，効率のよい調査活動が可能となります。



ICTを活用しない場合

Before

- 図書室にある書籍や新聞記事，副読本から情報を収集する。
- 大学や研究機関などの専門家から対面形式で講義を受ける。

After

ICTを活用した場合

- インターネットを利用して，常に最新の研究結果，社会情勢等の情報を収集できる。
- 動画コンテンツを活用して，様々な調査項目に関する説明を聞くことができる。
- 遠隔技術を活用して，大学や研究機関などの専門家にインタビューや講義等をとおして調査する。



ICT活用により期待できる効果

- 情報を主体的に収集する力の育成
- 情報の信憑性を判断する能力の向上
- 遠隔技術を活用したコミュニケーション力の向上 etc...

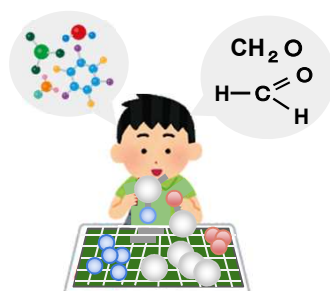


個別学習



B3 思考を深める活動

- デジタル教材等を用いて、通常では難しい実験や試行のシミュレーションを行うことで、学習課題への関心が高まり、理解を深めることが可能となります。



ICTを活用しない場合

Before

- 教科書や副読本等に掲載されている実験結果やシミュレーションモデルを読んで理論等を理解する。
- 実際にモデル等を作成して理解を深める。

After

ICTを活用した場合

- 学校の環境では難しい実験の動画（デジタルコンテンツ）を視聴して、理解を深めることができる。
- デジタル教材を活用して、平面図形や展開図を立体的に現し、様々な方向から観察することができる。
- シミュレーションアプリ等を活用し、実験における結果の理論計算や分析等ができる。



**学校の環境では
実験が困難な動画の視聴**



理論計算・結果分析



設計・構造分析

シミュレーションアプリ等の活用

ICT活用により期待できる効果

- デジタル教材等の活用による学習課題への意欲の向上
- シミュレーション活動による学習理解の深化
- データ等の分析力の育成及び定着

etc...



個別学習



B 4 表現・制作

- 写真・音声・動画等のマルチメディアを用いて、多様な表現を取り入れた作品の制作と制作した作品を自在に保存・共有することが可能となります。



体育・表現運動



書道



美術

ICTを活用しない場合

Before

- 各教科の特性に応じた表現方法で作品を制作する。

After

ICTを活用した場合

- 各教科の特性に応じた表現方法を、写真・音声・動画等の様々なマルチメディア技術を取り入れ新たな表現作品を制作できる。
- 制作した作品が電子的に保存でき、表現活動や作品の公開・展示を、時間や場所を限定せず行うことができる。



映像作品の制作

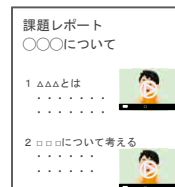


Web調査

+



調査内容を
映像として記録



デジタル報告書の制作

ICT活用により期待できる効果

- 作品制作における表現技法の向上
- メディアの特性を活かした表現力の育成
- 課題や成果物のデジタル保存

etc...



個別学習

B 5

家庭学習



- 学習用端末を家庭に持ち帰り，動画やデジタル教材等を用いて授業の予習・復習を各自のペースで行うことが可能となります。



ICTを活用しない場合

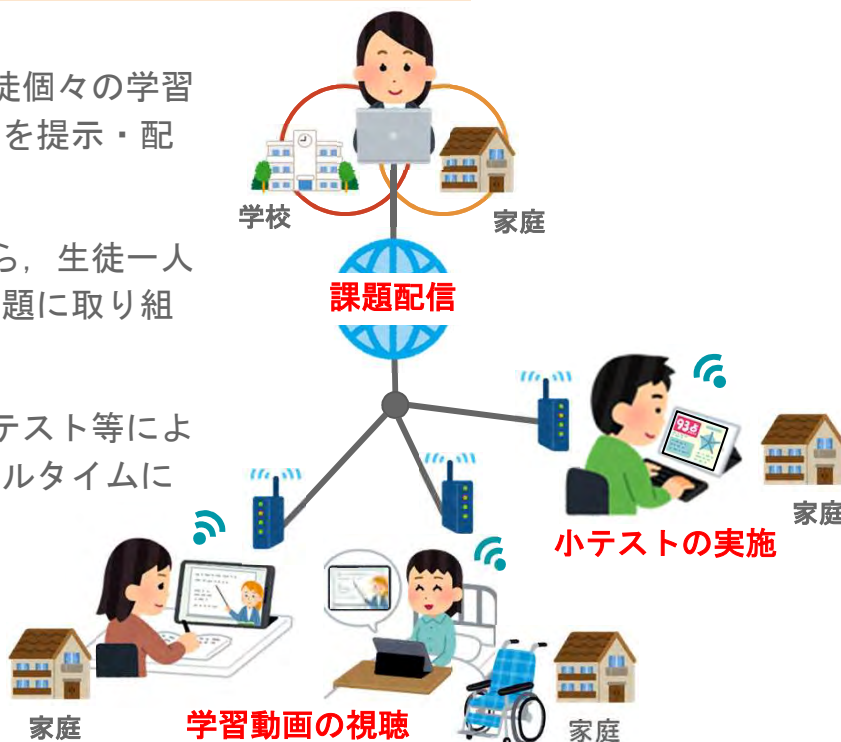
Before

- 学校で配布された課題プリントを家庭で学習する。
- 学校で課題提出する。

After

ICTを活用した場合

- 場所を限定せずに，生徒個々の学習理解に応じた適切な課題を提示・配信することができる。
- 学習動画を視聴しながら，生徒一人一人が自分のペースで課題に取り組むことができる。
- 課題の取組状況や，小テスト等による学習理解の状況をリアルタイムに確認することができる。



ICT活用により期待できる効果

- 各自の習熟度に応じた課題配布による学力の向上
- インターネット等の利用による情報リテラシーの育成
- 臨時休校時における学びの保証

etc...



協働学習



C 1 発表や話し合い

- 学習課題に対する自分の考えを学習用端末や電子黒板等を用いてグループや学級全体に提示することで、円滑な発表・話し合いをすることが可能となります。



ICTを活用しない場合

Before

- 学習課題に対する自分の考えを口頭で説明する。
- 手元の学習プリント等を提示して話し合いをする。

After

ICTを活用した場合

- 学習課題に対する自分の考えを大型提示装置を用いてグループや学級全体に共有して発表や話し合いができる。
- 生徒個々が作成した作品や資料を、グループや学級全体で一斉に提示することにより、課題解決に必要な情報を効果的・効率的に共有することができる。
- 発表や意見交換で得られた他者からのアドバイス等を参考に、作成している作品や資料をその場で改善することができる。



資料
提示・共有

資料を拡大提示した説明・発表



学習用端末を用いた話し合い

ICT活用により期待できる効果

- 思考力や表現力の向上
- 多角的な視点での見方・考え方の育成
- 発表・話し合いを通した新たな表現や考えへの気づき etc...



協働学習



C 2

協働での意見整理

- 学習用端末等を用いて学習課題に対する互いの意見・考えを共有し，話し合いを通じて議論を深め，意見整理を円滑に進めることが可能となります。



ICTを活用しない場合

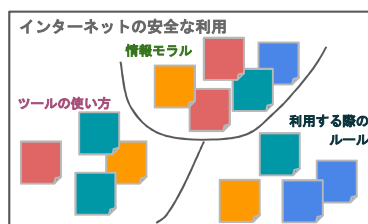
Before

- グループ内で口頭による意見交換をする。
- ホワイトボード等に付箋を貼って意見を整理する。

After

ICTを活用した場合

- 協働学習アプリケーション等を利用して，学習課題を効率よく整理することができる。
- グループメンバーの意見を，各自の情報端末から容易に閲覧・比較することができる。
- 各自の進捗状況や内容の重複，過不足等についてグループ内で把握し合い，課題の整理を円滑に進めることができる。



学習用端末を活用した
意見整理

ICT活用により期待できる効果

- 学習課題等に対する効果的・効率的な意見集約
- グループ内で情報を共有する時間の短縮
- グループ内で議論する時間の確保

etc...



協働学習



C 3

協働制作

- 学習用端末を活用して、写真・動画等を用いた作品制作をグループ内で共同編集することにより、他者の進み具合や全体像を意識して作業を進めることが可能となります。



ICTを活用しない場合

Before

- グループ内で役割分担された内容を各々が調査に取り組む。
- 各々が調査した内容をもとに、グループで話し合いながら、作品等の制作を進める。

After

ICTを活用した場合

- グループ内の各メンバーの進捗状況（文章の書き方・まとめ方、使用する写真等）をリアルタイムに確認しながら効率よく作業を進めることができる。
- 文章や写真だけでなく、動画等の新たな表現方法を活用することで、表現力豊かな作品の制作ができる。
- 場所や時間に限定されることなく、一つの作品等を同時に制作・編集することができる。



ICT活用により期待できる効果

- マルチメディアを活用した作品制作による豊かな表現力の育成
- コミュニケーション・コラボレーション力の育成
- 情報を主体的に収集・判断・活用する能力の育成 etc...



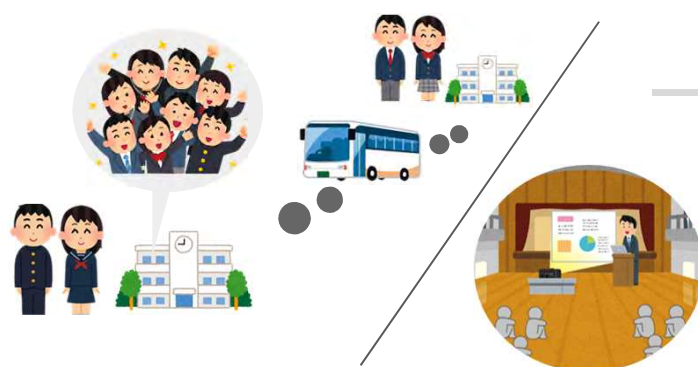
協働学習



C 4

学校の枠を超えた学習

- インターネットを活用して他校の生徒や地域の人々，専門家とリアルタイムに交流することで，今までは体験できなかった多様な見方を身に付けることが可能となります。



ICTを活用しない場合

Before

- 生徒が他校に出向き対面で交流する。
- 外部講師をお招きした講演会を実施する。

After

ICTを活用した場合

- オンラインを活用し，近隣の学校に限らず，遠方の学校や海外の学校との意見交換や情報共有ができる。
こうした交流をとおして，学校の枠を超えた課題解決学習に取り組むことができる。
- 企業や研究機関等の専門家の遠隔講義（Webセミナー）ができる。



Webを活用した交流

オンラインセミナー

学校

ICT活用により期待できる効果

- 多様なものの見方，考え方の育成
- 専門家との意見交換による興味，関心の向上
- 異文化理解の醸成

etc...



ICTを活用した授業づくりの手順

- 前述のとおり，ICTの活用について授業内外での学習活動・学習場面で整理しています。
- これら整理をした学習活動におけるICT活用の分類を授業に取り入れることで，ICTを有効に活用した学びが実現できます。
- ここでは「ICTを有効に活用した授業づくり」の実現に向けた手順について解説します。

① 授業のねらいを定め，3つの視点から授業を組み立てる

授業の組み立てに必要な3つの視点

何を学ばせるか

どのような力を身に付けさせるか

どのような学ばせ方が望ましいか



授業の組み立て

例)

導入	授業内容（学習活動）の説明
展開	・ 課題解決に向けたグループ協議 ・ グループ相互の意見交換
まとめ	授業で学んだことの確認

POINT



授業の組み立ての段階では，ICTの活用は考えない

② 授業場面に応じたICT活用の検討 —学習場面の整理を参考に—

- 手順①で組み立てた授業「導入」「展開」「まとめ」における各取り組みを，前項「学習活動・学習場面の整理」を参考にICT活用について検討する。

導入	授業内容（学習活動）の説明	➡	A 1
展開	・ 課題解決に向けたグループ協議 ・ グループ相互の意見交換	➡	C 2 ➡ C 1
まとめ	授業で学んだことの確認	➡	B 1



ICTを活用した授業づくりの手順

③ 授業場面に応じたICT活用の検討：再考

- 授業にICTを活用することを検討しても、結果的にICTを活用しなかった場合の方が学習効果が得られるということも考えられる。
- 手順②で検討したICT活用を、様々な視点から再考し、授業でのICTの活用について最終的に判断する。

導入

授業内容（学習活動）の説明



A 1

ICT活用のメリット

板書の必要がなく，導入時間を短縮することができる。

→「展開」での学習活動における時間を担保できる。

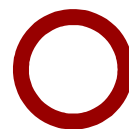
ICT活用のデメリット

事前準備として，スライド等を新たに作成する必要がある。

→ メリット：授業教材の蓄積及び共有ができる。



A 1



採用

展開

- ・課題解決に向けたグループ協議
- ・グループ相互の意見交換



C 2

C 1

ICT活用のメリット

→生徒全員で意見交換することができる。

→意見交換におけるプレゼンが円滑に行える。

→グループ協議のまとめ等の成果物を容易に回収できる。

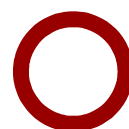
ICT活用のデメリット

特になし



C 2

C 1



採用

まとめ

授業で学んだことの確認



B 1

ICT活用のメリット

→授業における学習理解を形成的に判断することができる。

ICT活用のデメリット

事前準備として，スライド等を新たに作成する必要がある。

→ メリット：授業教材の蓄積及び共有ができる。

その他の条件

学校行事が重なり，資料を作成する時間的余裕がない。

※ この学習活動におけるプリントは今までに作成されている。



B 1



不採用

ICTを活用せず，
プリントを活用



ICTを活用した授業づくりの手順

④ ICTを活用した授業展開の整理

□ 手順③で再考したICT活用を含め、最終的な授業展開を整理する。

導入	授業内容（学習活動）の説明	A 1
展開	- 課題解決に向けたグループ協議 - グループ相互の意見交換	C 2 C 1
まとめ	授業で学んだことの確認	



参考

【文部科学省】



各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料
URL https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html

【文部科学省】



高等学校における学習支援コンテンツ
URL https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00461.html

【文部科学省】



Afterコロナの時代の「新しい学びの姿」オンラインセミナー
URL https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbDKeg0m-7_Qse7IWCeddhEk

【文部科学省】



民間企業等によるICTの効果的な活用に関する参考資料
URL https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00964.html

【GIGA HUB WEB：一般社団法人 ICT CONNECT21】



【Google】動画で学ぶ Google for Education 活用事例集
URL <https://giga.ictconnect21.jp/202010131898/>

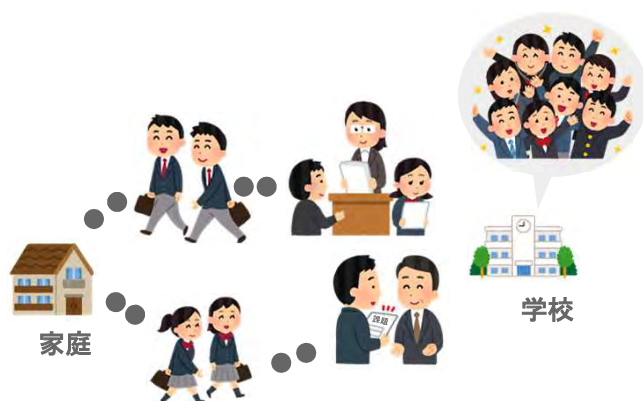


HR活動

α 1

オンラインHR活動

- インターネットを活用してオンラインで繋がることで、クラスの交流の場を広げたり，人間関係を形成することが可能となります。



ICTを活用しない場合

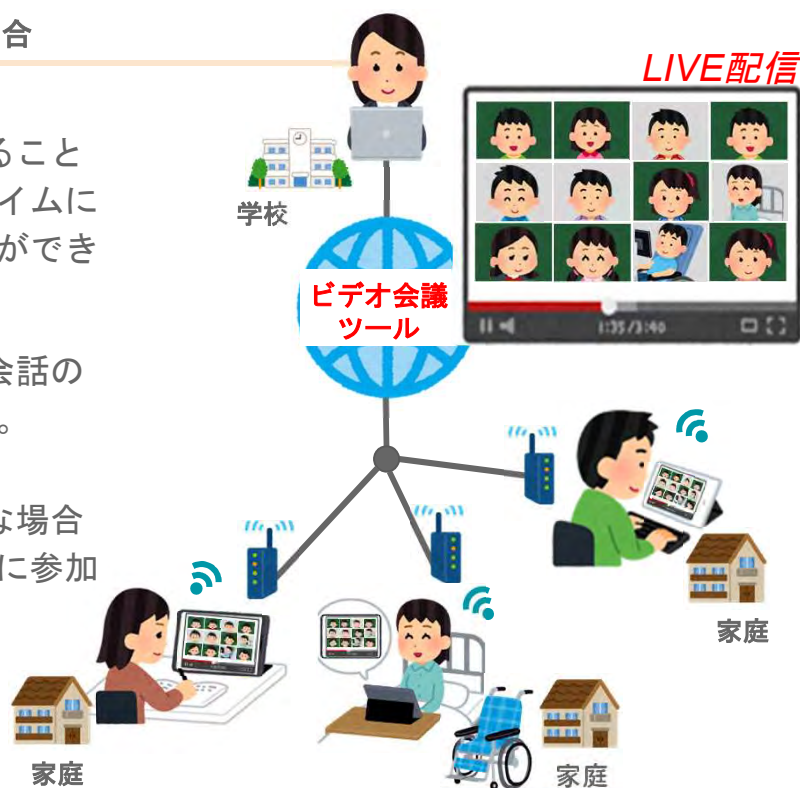
Before

- 学校でHR活動をする。

After

ICTを活用した場合

- ビデオ会議ツールを利用することで，オンライン上でリアルタイムにホームルーム活動を行うことができる。
- 場所にとらわれず，集団で会話のやりとりを行うことができる。
- 学校に登校することが困難な場合でも簡単にホームルーム活動に参加させることができる。



ICT活用により期待できる効果

- 長期休業中（夏休み等）における人間関係の形成
- 自然災害等における臨時休校時の交流の場を形成
- 生活習慣の確立

etc...

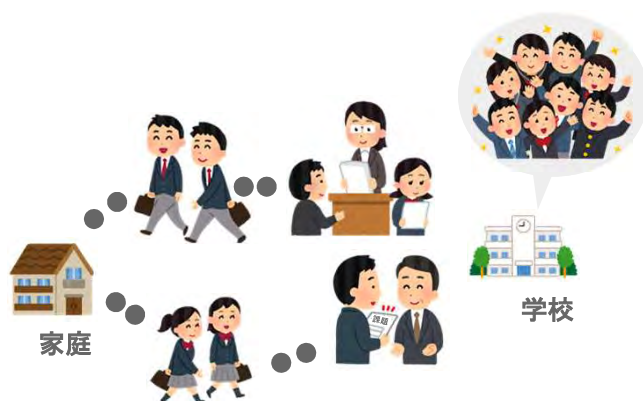


HR活動

α2

オンラインHRで課題等の提出

- インターネットやアプリケーションを活用することで、健康状態や家庭学習の進捗状況等を共有することが可能となります。



ICTを活用しない場合

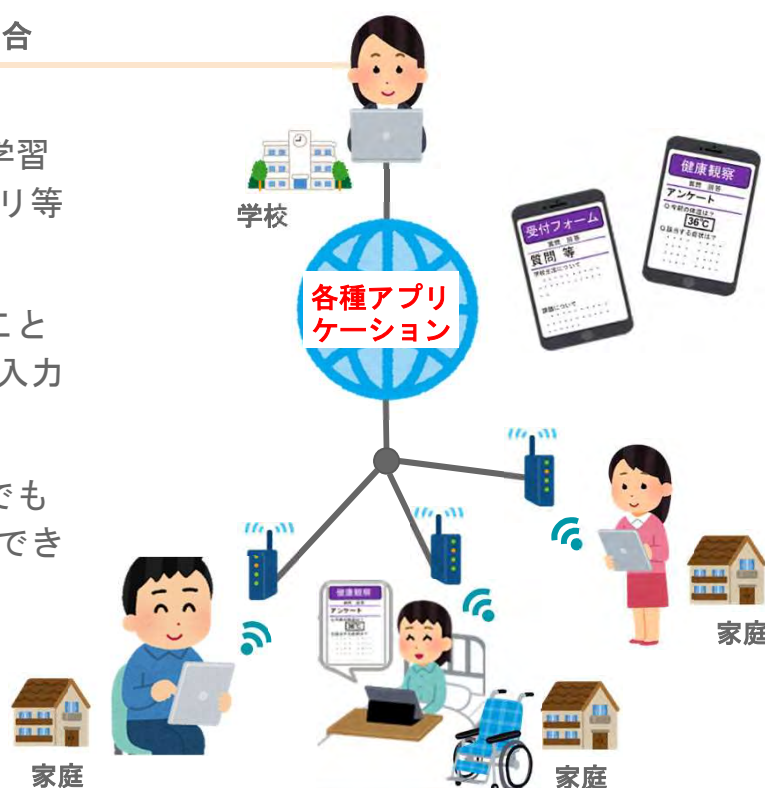
Before

- 学校でHR活動をする。
- 連絡事項を紙（プリント）で受け取り，登校して提出する。

After

ICTを活用した場合

- 朝と夕方の健康状態や家庭学習の進捗状況をアンケートアプリ等に入力して回答する。
- 家庭学習等における困ったことや質問などを受付フォームに入力して回答する。
- 学校からの連絡事項をいつでもどこでもペーパーレスで確認できる。



ICT活用により期待できる効果

- 長期休業中（夏休み等）における健康状態の確認
- 自然災害等における臨時休校時の学校と家庭の連携
- 学習習慣の確立

etc...



進路指導

α 3

個に応じたオンライン進路指導

- インターネットを活用してオンラインで繋がることで、進路指導における面接指導や小論文の添削指導をすることが可能となります。



ICTを活用しない場合

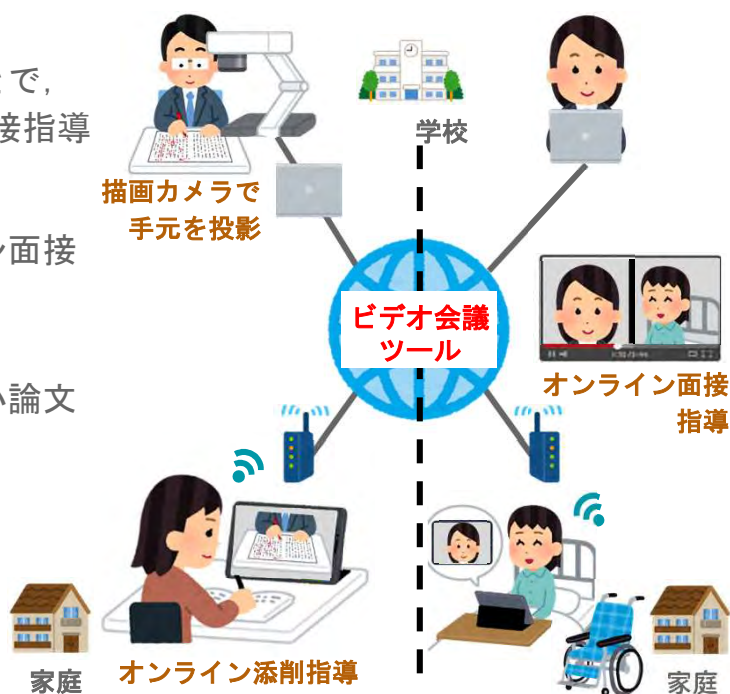
Before

- 学校で進路指導をする。

After

ICTを活用した場合

- ビデオ会議ツールを利用することで、オンライン上でリアルタイムに面接指導ができる。
- 大学や企業が実施するオンライン面接の対策ができる。
- 描画カメラを活用することで、小論文の添削指導ができる



ICT活用により期待できる効果

- 長期休業中（夏休み等）における進路指導の充実
- 自然災害等における臨時休校時の進路指導の保障

etc...



進路指導

α 4

主体的なオンライン進路活動

- インターネットを活用することで、大学や企業等の進路に関する情報を調べたり、同じ事柄に対して複数の資料から情報を得ることが可能となります。

Before

ICTを活用しない場合

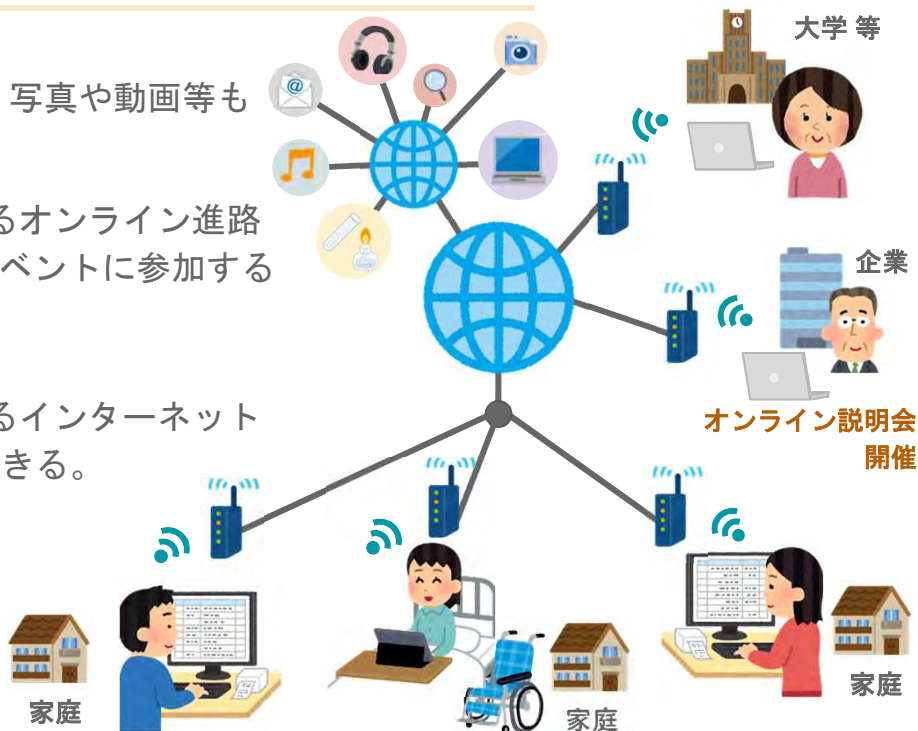
- 学校に登校し、進路活動をする。



After

ICTを活用した場合

- 必要な情報を検索し、写真や動画等も集めることができる。
- 大学や企業が主催するオンライン進路説明会や相談会等のイベントに参加することができる。
- 大学等が実施しているインターネット出願（Web出願）ができる。



ICT活用により期待できる効果

- 長期休業中（夏休み等）における進路活動の充実
- 自然災害等における臨時休校時の進路活動の機会保障

etc...

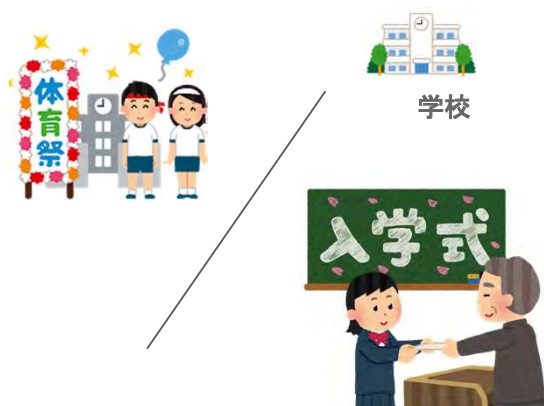


学校行事

α5

学校行事のオンライン配信

- ビデオ会議ツールや動画配信サイトを活用することで、入学式や卒業式、体育祭などの学校行事を保護者向けに配信することが可能となります。



ICTを活用しない場合

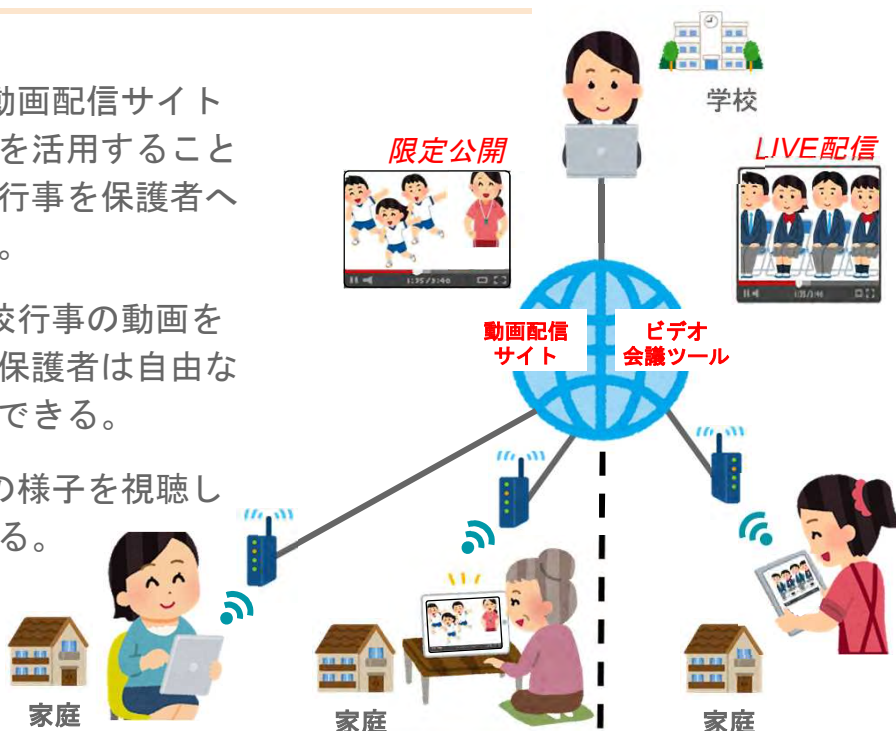
Before

- 学校行事に保護者を招待する。

After

ICTを活用した場合

- ビデオ会議ツールや動画配信サイトのストリーミング配信を活用することでリアルタイムに学校行事を保護者へ配信することができる。
- 動画配信サイトで学校行事の動画を限定公開することで、保護者は自由な時間に視聴することができる。
- 生徒自身も学校行事の様子を視聴して振り返ることができる。



ICT活用により期待できる効果

- 感染症拡大防止による来校制限下での学校行事の公開
- 学校行事の振り返り
- etc...

「GIGAスクール構想」時代のICT活用ガイド ー県立学校版 ICT活用レシピー



令和３年３月 作成

製作・発行

埼玉県立総合教育センター

県立学校におけるICT活用プロジェクトチーム